

花 橘

ここに立つために

人権・同和教育／研修課長 山内 一輝

発行日

令和7年10月23日

第8号

発行・編集

三崎高校総務課

「ここに立つために鍛え抜いた日々よ 原口のすべて 魅せる震わせろ」

これは今シーズンで引退する阪神タイガース原口文仁選手の応援歌だ。度重なるケガや育成落ち、大腸がんと戦いながら、それらに打ち克ち続けた偉大な選手である。試合中この応援歌が流れる度に気持ちが高揚し、活力がみなぎる。自分にも当てはまる気がするからかもしれない。今回はこの大好きな応援歌に寄せて少し話をしたい。

私にとつての「ここ」は三崎高校である。高校二年生の夏、「三崎高校の教壇に立ちたい」という夢を抱いた。家庭の事情もあり、国公立大学に行けなければ就職するよう言われていた。AO入試（現在の総合型選抜）、学校推薦ともに不合格となり、最後の望みの一般入試に向けて必死に勉強した。当時は塾がなく、冬休みは進路室で朝から晩まで過去問と格闘した。なんとか北九州市立大学に合格し、夢への一步目を踏み出した。しかし、その後が大変だった。

当時の私は人が極端に嫌いで、とにかく大学が苦痛だった。十階にある教室にも人と会わないよう非常階段で通った。卒業間近にゼミの先生から「君は本当に人前で授業できるの？」と本気で心配された。それでも、「三崎高校の教壇に立つ」という夢だけは変わらなかった。今思えば、「夢」ではなく「執着」だった。楽しかった高校の三年間をもう一度味わいたいという一心でしがみついていた。

大学卒業後、三崎高校への道は遠く、教員採用試験に落ちながら、特別支援学校や定時制等、様々な学校に勤務した。そこで大学の四年間で拒絶していた「他者との関わり」を多く経験した。失敗して叱られることもたくさんあった。本当に多くの人に「一から鍛えていただいた。そんな中で徐々に視界が広がったように思う。出会った生徒からも逆に多くのことを教えてもらい、「国語の先生って何だ」と改めて考えることも増えた。（まだ答えは出ない……）そうしてやっと「執着」から本当の「夢」になった。

出会ったすべての人のお陰で教員採用試験に合格できた。令和四年四月には念願の「ここ（三崎高校の教壇）」に立つことができた。嫌で嫌で仕方なかった他者との関わりが自分の夢を叶える鍵だったことにやっと気付いた。

そして、次の夢が生まれた。今、目の前で授業を受ける後輩たちのために何かを「魅せる」ことができるように、「震わせる」ことができるようになる。皆さんもここで多くの人と関わって刺激を受け、夢を見つけてほしい。私もここで再び皆さんと一緒に夢に向かって精進できることを嬉しく思う。

みさこうフェスティバル

9月20日（土）に、三崎総合体育館でみさこうフェスティバルが開催されました。みさこう応援団や伊方町内の中学生の皆さんにも参加していただき、吹奏楽部の演奏のほか、歌やダンスなどを披露しました。地域の方々から盛大な拍手が送られ、会場は温かい雰囲気になりました。今回で引退する部長の菊池さんは「3年間やり切ることができた。」と笑顔で話してくれました。これからは1、2年生部員がみさこうサウンドを継承していきますので、今後の活躍にご注目ください！また、11月3日（月・祝）の文化祭では、吹奏楽部の演奏や合唱コンクールなどを行います。ぜひ御家族でお越しください。



生徒会スタート

生徒会長	高月 琉生
生徒会副会長	大谷 星悟
生徒会副会長	山口 琉花
生徒会書記	岩部 伶王
生徒会会計	小谷 優真

9月24日（水）に生徒会選挙を行い、10月から左表のメンバーで生徒会活動を開始しています。新生徒会長になった高月さんに意気込みを聞いてみると、「全員でつくる学校にしていきたい。」と熱い思いを聞かせてくれました。新生徒会メンバーで三崎高校をつくりあげて行きます。保護者の皆様も生徒会活動への御協力をお願いします。